

6-0221

0292

（録印）

祕受0780號

大正四年一月廿八日接受  
駐外事務局

第二課

海軍

大正四年一月二十七日

海軍次官 鈴木貫太郎

外務次官 松井慶四郎殿

駐在員任令通知ノ件

今般海軍々医少監山下奉表傳染病學及語學  
研究ノ爲メ英國駐在彼仰付候ニ付其趣同國  
政府へ通知方可然御取計相成度  
右申進ス

終

花崎

6-0221

0293

謹啓

大正四年壹月廿八日接受

海軍省  
海軍大臣  
原

大正四年 一月 二八日起  
同 八月 二九日附

成毛

改送第 六號

第二課

主管政務局長

加藤

大正四年 壹月廿九日 漢

加藤外務大臣

在 英國

井上 大使宛

第 26 門

山下海軍々医少監 英國駐在

二關スル件

外務省

今般海軍々医少監 山下 奉表 傳染病學及諸學

研究ノ爲 間 英國駐在

仰付 ラレ候趣同國政府へ通知方 海軍大臣ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也

被受1084第

大正四年貳月 六日接受 駐政務局 第二課

大正四年二月五日

海軍次官鈴木貫太郎

外務次官松井慶四郎殿

駐在員ニ関スル件

英國駐在海軍樞密院中佐大内愛七

海軍樞密院少佐黒田琢磨

右者今般艦艇樞密院ニ関スル調査研究ノ為

何レモ頭書ノ通駐在被仰付矣奈其ノ旨英

海軍

國政府ハ通牒方可能也云々 右者

右艦會ス

終

6-0221

0295



機密

第20門

読字

大正四年貳月 入田接受

大正四年 二月 六日 起算  
同 年 八月 日 附

成色 32

改機密第五號

主管 政務局長

毒 第二課  
松田 長 初 本

大正四年貳月 八日 達濟

加藤 外務大臣

在 英國  
井上 大使宛

大内海軍機関中佐外一名英國駐在

二關スル件

外務省

今般海軍機関中佐大内愛七及海軍機関少佐里田琢磨兩名  
艦艇機関ニ関スル調査研究  
ヲ爲 英國ニ駐在ス

被仰付ス候趣同國政府へ通知方 海軍大臣ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着  
ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度  
此段申進候也

海軍省 原尾崎 仁科

手島武吉海軍省秘書長事務官

大正四年貳月廿貳日接達

駐政務局 第三課

官房機密第二二七號ノ二

大正四年二月二十日

海軍次官 鈴木貫太

外務次官 松井慶四郎殿

駐在員任命ノ件

露國駐在海軍少佐 米内光政

右者語學及海軍一般軍事研究ノ為頭  
書ノ通駐在彼仰付矣余其ノ旨露國  
政府ハ通牒方可能也此致 貴方

海軍

右照會ス

(終)

大正四年二月廿二日

大正四年二月廿二日

90



事務局長の署名

大正四年二月廿二日

成

改送第九號

第二課

主管政務局長

7

11/11

加藤外務大臣

在露國

本野大使宛

米内海軍少佐露國駐在

二關スル件

外務省

今般海軍少佐米内光政諸學及海軍一般軍事

研究ノ爲 閣 露國ニ駐在被仰

付 候趣同國政府へ通知方海軍大臣ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也

第20門

郵政省

陸海軍省

1935  
昭和10年

大正四年三月五日  
駐外官  
警務局  
第二課

大正四年三月五日

海軍次官 鈴木貫太郎

外務次官 松井慶四郎

駐在員 佐々木一

英國駐在 海軍少佐 藤田尚徳

右者 今般語學及海軍一般軍事ニ関スル  
事項ノ調査研究ノ爲 駐在員  
仰付 貴条此ノ旨 英國政府ニ通牒 方可能

海軍

右者 今般語學及海軍一般軍事ニ関スル  
事項ノ調査研究ノ爲 駐在員  
仰付 貴条此ノ旨 英國政府ニ通牒 方可能

終



文書課長

大正四年三月 六日 成王

大正四年三月 六日 接受

大正四年三月 六日 接受

大正四年三月 六日 附

改選第二一號

第二課

主管政務局長

六日 附

加藤外務大臣

在英國

井上大使宛

藤田海軍少佐英國駐在

ニ關スル件

外務省

今般海軍少佐藤田尚德語學及海軍一般軍事ニ関スル事項ノ調査研究

ノ爲

閣

英國ニ駐在被仰付

候趣同國政府へ通知方海軍大臣ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也

第20門

郵政省



大正四年三月十五日

大正四年三月十五日  
管政務局 第二課

官房第七八九號

大正四年三月十五日

海軍次官 鈴木貫太郎

外務次官 松井慶四郎

英國駐在員 佐原通知方ノ件

今般該學並英國工業用品其他物  
資需給ノ實況及戰時奉愛ニ於テ  
經理法研究ノ為ノ海軍主計少監横見  
補一英國駐在員 仰付候ニ付其ノ趣同國

海軍

政府ノ通知方依例可然御取計相成度  
右申進ス

終

第20門

第20門

受05709

文書課長

大正四年三月拾六日接受

25

淨書

大正四年三月十五日  
同 年 八月十六日附

成王

改送第二五號

第二課

主管 政務局長

大正四年三月拾六日  
在 英國

加藤 外務大臣

井上 大使宛

横見海軍主計少監英國駐在

二關スル件

外務省

今般海軍主計少監横見補一語學並英國工業用品其  
他物資需給ノ実況及戰時事度ニ於テ會計経理法研究爲  
ノ爲 閣 國

英國駐在 候趣同國政府へ通知方 海軍大臣ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着  
ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度  
此段申進候也

大正四年四月 参日接受 管正務長 第二課

第2822號

大正四年四月二日

海軍次官 鈴木貫太郎

外務次官 松井慶四郎殿

米國駐在員ニ関スル件

米國駐在海軍中佐樺山可也

右者昨年八月以來軍事視察ノ為加奈

陀ニ滞在セシメ置キ今般米國ニ歸還

セシメ貴寮当候官憲ニ通知方可能御取計

相成度

右申進ス

海軍

終

課長

大正四年四月 六日 署

浄書 校正 署

事務省

大正 四年 四月 六日 附

送第 七 號

主情 政務員

第一課

松田

大正四年四月 六日

加藤外務大臣

在オタワ

矢田總領事 宛

樺山海軍中佐米國へ帰還

第 第 第  
項 類 門  
第 第 第

大正四年四月 七日 記 録 第 十 部 課 長

事務省

客年八月十三日付政送第三七號ヲ以テ便  
宜供与方申進置矣米國駐在海軍中佐  
樺山可也今般米國ニ帰還シ命セラルル趣  
海軍省ヨリ通牒有之矣系右様ニ承知  
相成度狀段申進矣也



祕受4291號

大正四年五月拾參日接受

駐政務局

第三課

六三六號二

大正四年五月十二日

海軍次官 鈴木貫太

外務次官松井慶四郎殿

駐在員任令ノ件

米國駐在海軍少佐百武源吾

右者今般語學及海軍一殺軍事研究  
調査、爲頭書ノ通駐在被仰付蒙此  
ノ旨米國政府ノ通牒方可能御取計相

海軍

成度

右申進ス

(終)

6-0221

0305

大正四年五月拾参日接受

大正四年五月拾参日接受

大正四年五月拾参日接受

88

津書

大正四年五月拾参日接受

收機密送第二〇號

主管政務局長

陸 第二課

大正四年五月拾参日接受

外務大臣

在米 珍田大使宛

百武海軍少佐米國駐在

ニ關スル件

外務省

今般海軍少佐百武源吾語学及海軍一

般軍一爲 米國ニ駐在チ

仰付 ラレ候趣同國政府へ通知方海軍省

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着  
ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度  
此段申進候也

第門

第門

右者今般電氣之學ニ関スル研究調査ノ為  
府ノ通牒方可能ニ取計スル事也

大正四年五月拾八日 接受

警務局 第二課

官房 第六六一號

大正四年五月十八日

海軍次官 鈴木貫太



外務次官 松井慶四郎殿

駐在英領事館ノ件

米國駐在英海軍條約大尉府録東作

右者今般電氣之學ニ関スル研究調査ノ為  
府ノ通牒方可能ニ取計スル事也

海軍

右申進ス

終

第 20 号

いん四押

第受4477番

秘受4499號

大正四年五月十九日接獲

駐政務局

第三課

海

軍

官房機密第六五二號上

大正四年五月十八日

海軍次官 鈴木貫太

外務次官 松井慶四郎殿



駐在員任令ノ件

米國駐在 海軍少佐 西崎勝之

右者今般諸學及一般電氣工學研究、為致書、通駐在彼仰  
付至奈此、昔米國政府へ通牒方可然御取計相成度

右申進ス

終

花崎納

6-0221

0308



機密

文書部長

大正四年五月拾九日接受

大正四年五月十九日起算  
同年五月十九日附

改機密第一二號

主管政務局長

大正四年五月拾九日達齋

在米國

鈴木大使宛

加藤外務大臣

松田

第二課

清書校正

西崎海軍少佐米國駐在  
ニ關スル件

外務省

今般海軍少佐西崎勝之語學及一般電氣工學

研究ノ爲

閣

米國ニ駐在被仰付

候趣同國政府へ通知方海軍大臣ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着  
ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度  
此段申進候也

文書課長

大正四年五月拾九日受

25

文書課

大正四年五月十八日起算  
同 年 月 日 附

成毛

改送第三八號

課 第二課

主管政務局長

大正四年五月拾九日達齊

加藤 外務大臣

在米國

珍田 大使宛

府録海軍機関大尉米國駐在

二關スル件

外務省

今般海軍機関大尉府録東作電氣工學ニ関スル

調査ノ爲

聞

米國ニ駐在被仰付

候趣同國政府へ通知方海軍大臣ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也

第6659號

大正四年七月廿六日接獲

管政務局

第二

海

軍

官房機密第九四五號

大正四年七月二十四日

海軍次官 鈴木貫太郎

外務次官松井慶四郎殿

駐在英領事館通知、件

今般海軍大軍艦福島久之軍陣防疫學及英  
諸學研究、為、英國駐在彼仰付多、其  
、越同國政府、通知、方能御取計相成度  
右申進、大

花崎納

6-0221

0311

文書課長

大正四年七月廿七日 接受

95.

大正四年七月廿七日 成毛

海軍省第一五號

主管政務局長

7

第二課

機密

大正四年七月廿八日 達

在英國

井上大使宛

加藤外務大臣

第20門

福島大軍医(海軍)英國駐在

ニ關スル件

外務省

今般海軍大軍医福島久之軍陣防疫學及英語學

研究ノ爲 英國ニ駐在 被仰付

候趣同國政府へ通知方 海軍大臣ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也



大正四年九月拾五日接受

主政務局

第二課

卷一百一十五

海軍次官 鈴木貫

外務次官松井慶四郎殿

駐在員任命ノ件

米國駐在海軍少佐森電三

英國駐在海軍少佐下村忠助

右者今般海軍軍事一般二般三般之事項一調查研究一為頭書一通駐在破仰付各条

海軍

當換國政府、通牒方可就御取計相感交

終

花崎納

大正四年九月十六日  
同 年 月 十七日附

大正四年九月十六日接覽

海軍省

大正四年九月十五日  
同 年 月 十七日附

政送第 大五 號

陸 第二課

主管政務局長

大正四年九月十七日 陸海

大隈 外務大臣

在 米 珍田 大使宛

森海軍少佐米國駐在

ニ關スル件

外務省

今般海軍少佐森電三海軍軍事一般ニ關スル

調査研究ノ爲ニ 米國ニ駐在ヲ

仰付ラレ候趣同國政府へ通知方海軍省ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也

文書部

大正四年九月拾六日接覽

海軍部

大正四年九月十五日起草  
同 年 月 十七日附

政送第八三號

主管政務局長

第二課

大正四年九月拾七日達

大隈 外務大臣

在英

井上大 使宛

下村海軍少佐英國駐在

ニ關スル件

外務省

今般海軍少佐下村忠助海軍軍事ニ關スル

調査研究ノ爲ニ間ニ英國ニ駐在ヲ

仰付ラレ候趣同國政府へ通知方海軍省ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也



新10214

大正四年十二月廿日接受

駐政務局

第三課

長岡

明治

大正四年十一月二十二日

海軍次官 鈴木貫太郎

外務次官 幣原喜重郎 殿

駐在員任令、件

英國駐在海軍機關大尉 赤堀研吉

右者今般語學及機關術一般ニ関スル事項

ノ研究調査ノ為ニ願書ノ通駐在彼仰付矣

奈此、皆英國政府ノ通牒方可能御取計

海軍

相成、友

右申進ス

終

花崎納

6-0221

03 16



第10224號

大正四年七月廿參日接受

警務局

第三課

長岡

表

信

大正四年十一月二十二日

海軍次官 鈴木貫太郎

外務次官幣原喜重郎殿

駐在英任令ノ件

英國駐在海軍造松大技士山右藤二郎

右者今秋該學子駐松大技士山右藤二郎

查ノ為頭書ノ通駐在彼仰付多奈此ノ旨

英國政府ハ通牒方可然却取計相成否

海軍

右申進ス

(終)

花崎

6-0221

0317

28  
淨書  
校正  
海原  
下

改送第一〇三號

主管政務局長

大正四年 舊月廿六日 建

在英國

井上大宛使

石井外務大臣

毒  
第二課

岩藤海軍造船大技士英國國王在

ニ關スル件

外務省

今般海軍造師大技士若藤二郎諳學花柳閑閑不

研究調查  
此事項久爲  
聞  
英  
國二  
駐在  
井

仰付  
ラレ候趣同國政府へ通知方  
海陸軍大臣ヨ

リ 依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也

26

七五 木下博不無學及強志玉澤

送第一〇四號

主管 政務局長

森  
第  
二  
課

大正四年 舊月廿六日 達濟

石井 外務大臣

在英國

丹上大使宛

赤塘榑關大尉英國駐在

ニ關スル件

外務省

アカボリケンキチ

今般あや榘も侯こう大尉だいゑい赤せき塘たう研けん吉きち詒ぎ学がく及及び榘も侯こう術じゆつ般はん

研  
忙  
丸

笑之乎  
爲

開  
英  
國  
駐  
在

仰付

ラレ候趣同國政府へ通知方海陸軍大臣ヨ

り依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也

海軍少佐原敢二郎

大正四年三月拾日 接受 駐外事務 第二課 長岡 長岡

大正四年三月拾日 接受

大正四年十二月十日

海軍次官 鈴木貫太郎

外務次官 幣原喜重郎殿

和蘭國之帝國海軍駐在員派遣ノ件

語學研究及國情視察ノ爲今般左紀帝國海軍  
武官ヲ駐在員トシテ和蘭國ニ派遣致度貴省  
貴省ニ主管上御意見至急承知致度  
右照會ス

海軍

左記

海軍少佐 原敢二郎

(終)

和蘭國  
駐在員  
第10門



電 暗

左 呈 意

十 五

軍事部

第 20 門

法

政務局長

第二課

長 岡

表 示

石井大臣

左 和 蘭

松平代理公使宛

予ニヨリ  
諸君研究 暇 視察ノ為貴任國駐在員トシテ

海軍少佐系 敢ニ即ヲ派遣シタル旨趣ヲ以テ海軍

省ヨリ本省意見同合セ封シタリ 同 友 前任者ノ補

欠トシテ派遣セラルル儀ナルニ付 何モ支障ナシト思ハルモ

外 務 省

一應貴方ノ決意凡至急承知スルニ

事務局長宛外務省より送付

東京府知事 山田 敬二

電信課長 快

大臣 石井 五十四  
次官 山田 七五

海牙条約 大正四年十二月十一日  
石井外務大臣 代理公使

政務

第五二号

主息

通商

貴電 第二号

号、因に我駐在員、對せん今日迄

、吾國政府ノ態度、微スレバ、別段差支ナレ

ト思ハル

第20門

人事

會計

文書

參政官

副參政官

西軍ニ因テス

要復書

文書課長 大正四年正月拾四日發受

75

事務局長

大正

大正 四年 正月 二十 日 附

同 四年 十二月 二十 日 附

主管

第二課

主任

政務局長 大正四年正月拾四日發受

大正

人事課長

第20門

機密送第一八號

鈴木海軍次官宛

和蘭國、帝國海軍駐在員

派遣、件

外務省

和蘭國、駐在員として原海軍少佐派遣、件、同

し本月十日付事務録第一四三三号ヲ以テ、当者、

意見、送附、件、あり、其、為、念、在、和

蘭國、松本臨時代理公使、電報、其、意見、ヲ、徴

し、其、我、力、駐、在、員、ト、シ、今日迄、日用、政府、總、交

ニ、徴、し、ハ、別、般、差、支、無、之、旨、回、電、有、之、在、當、者

ニ、同、之、旨、ハ、同、及、派遣、ノ、件、ニ、付、何、事、モ、存、無、之、

在、回、答、申、達、ハ、也

第11360號

大正四年十二月廿一日接受

駐政務局

第二課

官房機密第一四八九號

大正四年十二月二十日

海軍次官 鈴木貫太郎

外務次官 幣原喜重郎殿

駐在員作原通知ノ件

英國駐在海軍少佐益子六彌

右者今殺語學及海軍一般軍事研究ノ為頭書  
ノ通駐在彼仰付其ノ其ノ趣當該國政府ノ  
可能御通知去來ノ旨

海軍

右申進ス

(終)

花崎納

6-0221

0324



第11438號

大正四年三月廿三日發

駐露

第三課

(長)

官房機密第一五〇六號

大正四年十二月二十二日

海軍次官 鈴木貫太

外務次官 幣原喜重郎 殿

駐在員任令ノ件

蘭國ニ海軍將校各駐在員トシテ派遣ノ件  
本月十日付官房機密第一四三三號照會ニ  
對シ同十四日付政探密送第一一八號ヲ以テ異存  
ナキ旨由回答ニ後シテ貴會令般海軍中佐原

海軍

教二郎蘭國駐在破仰付貴會此ノ旨同國  
政府ニ通牒方可能由取計貴會ニ付

右由進大

(發)

花崎 啓

6-0221

0325



文書部長

大正四年三月廿二日接受

第五海軍少佐益子六弥

大正四年十二月廿二日起算  
同年八月九日附  
成毛

改送第一一七號

主管政務局長

第二課

大正四年三月廿二日達

石井 外務大臣

在英國

井上 大使宛

益子海軍少佐英國駐在

ニ關スル件

外務省

今般海軍少佐益子六弥語學及海軍一般軍

事研究爲

聞

英國ニ駐在被仰

付テ候越同國政府へ通知方海軍大臣ヨ

リ依頼有之候間右可然御取計相成度尙同官到着

ノ上ハ目的タル用務ノ遂行上便宜ヲ與ヘラレ度

此段申進候也

第20門

第四

第20門

機密

文書課長

大正四年十二月廿五日起草

大正四年一月廿八日附

成毛

主任 第二課

主管 政務局長

大正四年一月廿八日達

在蘭國

松原代理公使宛

石井外務大臣

原海軍中佐蘭國駐在ニ関スル件

大正四年一月廿七日接受

（印）

6-0221

0327

本件ニ関シ本月十日發往電ヲニ〇號ヲ以テ照會ニ討  
シ十日發往電ヲ五二號ヲ以テ回報ノ次ハ並ニ海  
軍省ハ及回答置美處右往電ヲ以テ申進置美海軍  
中佐<sup>ハラウジヨウ</sup>原敢二郎<sup>ハラウジヨウ</sup>今般愈々蘭國駐在被仰付美趣ニ  
テ<sup>海軍省</sup>内政府ハ通告方内省ヲ依頼有之美間右可然何  
取計相成度尚口官到着ノ上ハ目的迄用務ノ遂行上便  
宜ヲ与ヘラレ度ハ般申進置也